

# 学力向上委員会

## ① 家庭学習の意義 ～なぜ家庭学習が必要なのか～

### (1) 学習内容の定着

家庭で復習することにより、習熟や定着を図ることができます。特に、漢字や計算などは、毎日繰り返し練習することで、学校で「分かった」ことが、家庭で「できる」という自信につながります。

### (2) 脳の活性化

脳は、手足の筋肉と同じように、読み・書き・計算を毎日繰り返すことで活性化します。脳は、鍛えれば鍛えるほど発達し、たくましくなり、いろいろなことに正しく使おうとする性質があります。

### (3) 学ぶ習慣の形成

毎日の家庭学習の継続は、自ら学ぶ姿勢を身につけ、やがて当たり前の習慣になります。それは、大人になっても仕事や社会で、常に“学び続ける”大きな力となっていきます。すなわち、『人の生き方』につながっていきます。

小さい頃から毎日欠かさずに、子どもの成長にあった家庭学習をしていくことが大切です。

### (4) 精神力の育成

家庭学習の最大の敵は、テレビやゲーム、パソコン、スマホなどの「誘惑」です。これに打ち勝つことは、時間や欲望を抑制できることにつながり、辛抱強さ・根気・集中力を養うことができます。テレビやゲームなどの時間を決めて、学習や読書の時間をしっかり確保しましょう。そのためには、テレビを消す、みんなで読書するといった家族全員の協力が必要です。

中学生になれば、そうした環境を自ら作り出し、「自律」そして「自立」に近づいていくようにしなければなりません。

### (5) 家族とのふれあい

「本を読んでいるとき、横で聞いている」、「勉強がわからないとき、教えたり一緒に考えたりする」など、学習する子どもに保護者がかかわることで、コミュニケーションが図れます。

家族のふれあいの機会が増えることは、子どもの精神の安定にもつながり、心身も頭脳も健やかに育ちます。

## ② 家庭学習のポイント（保護者の皆様へのお願い）

### （１）決まった時間に、毎日コツコツ行う

学校では、各学年に応じた宿題を毎日出しています。低学年は、家庭学習を習慣化する意味でも、帰宅後まずは宿題に取りかかるようにしましょう。中・高学年は、帰宅後、夕食後など学習する時間帯を決め、毎日コツコツ取り組むようにしましょう。

### （２）テレビを消し、集中して取り組む

家庭学習の効果を上げるためには、集中して学習に取り組むことが大切です。「～しながら」長時間学習してもなかなか成果は上がりません。テレビやゲームの音が聞こえるような環境では、子どもは集中できません。また、マンガやおもちゃが近くにあるのも、気が散ってしまいます。落ち着いて学習ができるような環境を整えましょう。

### （３）学力アップは、正しい生活習慣から

「早寝・早起き・朝ごはん」は、生活リズムの大原則です。生活のリズムを整えることが学力向上につながることは、調査でも明らかになっています。夜遅くまで勉強をされていて睡眠時間が少ない子よりも、十分な睡眠時間を確保している子の方が、学力が高いというデータもあるようです。学校でも家庭でも生き生きと元気に学習に取り組めるように、早く寝かせ、早く起こし、朝ごはんをしっかりと食べるようにしましょう。

### （４）子どものがんばりを認め、ほめて励ます

子どものがんばりを認め、ほめたり励ましたりすることにより、自信がつき、進んで学習しようという意欲が高まります。つつい口うるさくなりがちですが、強制したり間違いをきつく叱ったりすることは、学習意欲を減退させてしまい、逆効果になります。

## ③ 学習の進め方

1	担任から出される「宿題」を最初に取り組みましょう。
2	時間が余ったら、自学にも取り組みましょう。
3	どうしても勉強に飽きてしまう時は、読書やお絵かきでも構いませんので、必ず机に向かいましょう。机に向かう習慣が大切です。（特に低学年）
4	勉強が終わったら、翌日の準備をしましょう。鉛筆を削り、準備物をしっかりと整え、明日の学習予定を頭に入れておくようにしましょう。

# 小学1、2年生

# 学習の目安20～30分

小学校低学年は、生活習慣や家庭学習習慣を身に着けるスタートライン

## ◎こんな時期です

- ・さまざまなことに興味関心を持ち、自分でやっていこうと意欲的です。
- ・がんばったことやできたこと、よいところをほめてほしいと思っています。
- ・一人で学習することや、やり方を決めることはまだ難しいです。

## ◎家庭学習のポイント

### いっしょに取り組んで やる気をおこす

- ・一緒に、学習内容ややり方を決めましょう。
- ・できたことをほめることで、意欲が高まります。

子どもの学習に関心を！！	学習環境について	家庭と学校との協力
「家庭でも勉強する」という習慣をつけましょう。  ・少ない時間でも一緒にやる ・一緒にできない時は、後で目を通す。	学習机など「いつも決まった場所」をつくりましょう。  ・テレビは消すように家族が協力する。周りの気遣いが子どものやる気につながります。 ・ゲームの時間を決める。	学校からの連絡やお便りを一緒に確かめましょう。  ・毎日連絡帳を開いてサインをする。子どもも担任も安心します。

## ◎学年で身に着けたい力

### 習慣づけの1年生

- 鉛筆を正しく持って、正しい姿勢で字が書ける。
- ひらがな、カタカナが読めて書ける。
- 助詞「は」「を」「へ」を使い分けて文章を書く。
- 配当漢字（80字）のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- 100までの数について数えたり、表したりできる。
- ひとけたのたし算やひき算が正確にできる。
- 時計（アナログ）を見て、何時何分が読むことができる。

### 逃げない子にする2年生

- 配当漢字（160字）のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- 順序よく話をするができる。 ○主語と述語の意味がわかる。
- 九九がすらすら言える。たし算、ひき算、かけ算が正確に速くできる。
- 筆算をきれいに書き、正確に計算できる。
- 決められた長さの直線を正確に引くことができる。

# 小学3、4年生

# 学習の目安40～50分

好奇心旺盛な小学校中学年は、学習意欲を高めるとき

## ◎こんな時期です

- ・いろいろなことに興味を示し、行動範囲も広がります。
- ・好きなことに熱中するようになります。
- ・自分でやろうとすることが増えてきますが、まだ手助けは必要です。

## ◎家庭学習のポイント

### 認めて・ほめて・自信をつける

- ・家族の温かいアドバイスや励ましの言葉によってやる気を起こします。
- ・宿題を見るなどの手助けをして応援すると、少しずつ自分でできるようになります。

子どもの学習に関心を！！	学習環境について	家庭と学校との協力
がんばりを見逃さず、励ましの言葉をかけましょう。  ・わからないところは一緒に考える。 ・子どものちょっとしたがんばりを認める。	学習を始める時間をいっしょに決めましょう。  ・テレビは消すように家族が協力する。周りの気遣いが子どものやる気につながります。 ・ゲームの時間を決める。	学校からのお便りを家族に手渡す習慣をつけましょう。  ・お便りを置く場所を決める。 ・学校でのことを話題にしましょう。(ただし、しつこく聞くことは逆効果です。)

## ◎学年で身に着けたい力

### 分岐点を乗り越える3年生

- 配当漢字（200字）のすべてが読め、8割以上が書ける。
- 修飾、被修飾関係がわかる。 ○簡単なことわざがわかる。
- 国語辞典の使い方がわかる。 ○ローマ字の読み書きが正しくできる。
- かけ算の筆算や簡単なわり算などを正しい手順で計算できる。
- コンパスを正しく使うことができる。○はかりを使って重さが読める。
- 方位がわかる。 ○主な地図記号を覚えている。

### やればできるを実感できる4年生

- 配当漢字（200字）のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- 漢字辞典の使い方がわかり、使い方に慣れる。 ○簡単な慣用句がわかる。
- 文と文のつながりを考えながら、適切な指示語や接続語を使うことができる。
- わり算の筆算ができる。 ○分度器が正しく使える。
- 地図を使って地名や場所を調べることができる。
- 47都道府県の位置がわかり、正しく県名を書くことができる。
- パソコンでローマ字入力ができる。

# 小学5、6年生

# 学習の目安60～70分

小学校高学年は、中学校に向け自主性を育てる時

## ◎こんな時期です

- ・自分でできると思っていますが、見守ってほしいとも思っています。
- ・興味のあることを追求し、より専門的に学ぼうとします。
- ・心も体も成長するときです。バランスが崩れ、不安定になることもあります。

## ◎家庭学習のポイント

### 見守って・伸ばす

- ・子どもの話をよく聞き、様々なことについて語り合うことで、子どもは自分自身を見つめ、将来の夢や目標を持って努力するようになります。

子どもの学習に関心を！！	学習環境について	家庭と学校との協力
計画を立てて自力で学習を進めるよう見守りましょう。  ・他の子と比べず、昨日の我が子比べてほめる。 ・子どもの取り組みの実態を知り、アドバイスする。	自分に合った生活リズムを作りましょう。  ・テレビは消すように、家族が協力する。 ・帰宅後、夕食前など、学習に取り組む時間帯を決める。	思春期を迎え、子どもの心と体について気になる事があれば、担任に相談しましょう。  ・子どもとの会話をできるだけ多くとる。

## ◎学年で身に着けたい力

### 自ら学ぶ5年生

- 配当漢字（185字）のすべてが読め、8割以上が書ける。
- 今まで習った漢字を使った熟語の8割以上が書ける。
- 敬語を理解し、正しく使うことができる。 ○簡単な故事成語がわかる。
- 小数の掛け算やわり算ができる。 ○分母が同じ分数のたし算やひき算ができる。
- 百分率を使った問題が解くことができる。
- 日本や世界の主要国の位置を正しく示すことができる。

### 中学校生活に希望がもてる6年生

- 小学校で習ったすべての漢字が読め、8割以上が書ける。
- 小学校で習った漢字を使った熟語の8割以上が正しく書ける。
- 分数や小数のたし算、ひき算、かけ算、わり算ができる。
- 量の単位の大きさが分かり、単位間の変換ができる。
- 歴史上の人物や出来事について、だいたい説明できる。
- 理科の実験道具を正しく扱うことができる。

## かていがくしゅうの てびき (1ねんせい)

### <かていがくしゅうの ぽいんと>

○いえにかえったら まず しゅくだいをしよう。

○べんきょうする ばしょを かたづけよう。

○てれびを けて べんきょうしよう。

○がくしゅうじかんは 20ぷん~30ぷん。

○しゅくだいのほかにも じがくを やってみよう。

### ★じがくめにゅう (れい)

- ひらがなの れんしゅう • かたかなの れんしゅう
- かんじの れんしゅう • おんどく
- こくごの きょうかしよを かきうつす。(ししゃ)
- えにっきや にっきを かく。
- けいさんどりる • たしざんかあと、ひきざんかあと
- さんすうで ならった もんだいを もういちどする。
- けんばんはあもにかの れんしゅう
- どくしよをする。
- むしや くさばなの かんさつをする。
- むしや くさばなを ずかんなどで しらべる。

## かていがくしゅうの てびき (2ねんせい)

### <かていがくしゅうの ポイント>

- いえにかえったら まず しゅくだいをしよう。
- べんきょうする ばしょを かたづけよう。
- テレビを けて ベんきょうしよう。
- 学しゅうじかんは 20ぷん~30ぷん。
- しゅくだいのほかにも 自学を やってみよう。

### ★自学メニュー (れい)

- カタカナのれんしゅう • かん字のれんしゅう
- 音読 • えにつきやにつきをかく。
- こくごのきょうかしょを かきうつす。(ししゃ)
- 計算ドリルをとく。 • 九九のれんしゅう
- さんすうでならったもんだいを もういちどする。
- けんばんハーモニカのれんしゅう
- どくしょをする。
- 虫や 草花の かんさつをする。
- 虫や 草花を ずかんなどで しらべる。

## 家庭学習のてびき（3、4年生）

### <家庭学習のポイント>

- 始める時間を決めよう。
- 勉強する場所をかたづけよう。
- テレビを消して勉強しよう。
- 学習する時間は40分～50分。
- 宿題以外にも自学をやってみよう。

### ★自学メニュー（例）

- ・漢字練習をする。
- ・国語の教科書の書き写し（視写）をする。
- ・日記や作文、読書感想文、詩を書く。
- ・辞典を使って言葉の意味を調べる。
- ・音読をする。      ・詩を暗唱する。
- ・慣用句、ことわざを調べる。      ・ローマ字を練習する。
- ・興味のある事について本で調べ、まとめる。
- ・算数で習った問題をもう一度する。
- ・計算ドリルをくり返すする。
- ・社会や理科の教科書を読み、大事なことをノートにまとめる。
- ・リコーダーの練習をする。
- ・県名や地図記号などを覚える。



## 家庭学習のてびき（5、6年生）

### <家庭学習のポイント>

- 始める時間を決めよう。
- 勉強する場所を片付けよう。
- テレビを消して勉強しよう。
- 学習する時間は60分～70分。
- 宿題以外にも自学をやってみよう。

### ★自学メニュー（例）

- 漢字練習をする。
- 国語の教科書の文を書き写す。（視写）
- 日記や作文、読書感想文、詩を書く。
- 辞典を使って言葉の意味を調べる。
- 音読をする。   • 詩や俳句、短歌、百人一首を暗唱する。
- 故事成語を調べる。   • ローマ字の復習をする。
- 新聞記事を読み、自分の考えを文章にまとめる。
- 算数で習った問題をもう一度する。
- 計算ドリルをくり返しする。
- 算数の用語や図形の性質をノートに書いてまとめる。
- 社会や理科の教科書を読み、大事なことをノートにまとめる。
- リコーダー等、楽器の練習をする。
- 地図帳で教科書に出てきた場所を調べたり、県名や地名を覚えたりする。
- 歴史上の人物を調べたり、歴史年表を作ったりする。（6年生）
- 家庭科で習ったことを、家でもやってみる。

（料理、さいほうなど）